

川崎市議会 6月定例会が閉会 問われる市長と市議会の関係



- 1963（昭和38）年、高津区に生まれ、高津小学校出身。桐朋中学、高校を経て東京工業大学を卒業。
- 東京都三鷹市で9年間、地域情報化やプライバシー保護等に従事。
- セブナイレブン本部での情報システム構築をはじめ、ITを活用したシステムづくりに従事。
- 2003年4月、川崎市議会議員に初当選。
- 2007年4月、同2期目当選。
- 2011年4月、同3期目挑戦するも惜敗。
- 2015年4月、同3期目当選。
- 川崎市議会 環境委員会副委員長
- 神奈川県後期高齢者医療広域連合議員
- 民主党神奈川県連 総務・財政委員長
- 経済産業省 システム監査技術者
- 妻と長女の3人家族 下作延在住

（事務局）

改選後、最初の定例会も7月8日で閉会となりましたね。

（堀添）

はい。概ね1か月にわたって議論がされました。

今回の定例会を振り返ると、やはり市長の特別秘書制度をめぐる議論が一番の焦点であったと思います。これは、今までの一般職の公務員による秘書制度に加えて、新たに特別職の公務員による秘書制度を設けるものです。すでに神奈川県や横浜市では整備されていることもあり、川崎市議会においても制度の必要性については、一定の理解がされていたと思います。

（事務局）

しかし、市議会では否決されましたね。

（堀添）

そうですね。審議にあたった総務常任委員会では全会一致での否決であり、本会議場での採決でも、意志を表明した58名の議員のうち、私を含め56名による大差での否決となりました。

（事務局）

川崎市議会において、市長提案の議案が否決されたのは41年ぶりとの報道もされました。

（堀添）

市長提案の議案が否決されたこと自体は、それほど大きな問題ではないと私は考えています。国とは異なり、二代表制のもとで運営される地方自治体においては、市長と議会のいずれもが直接市民に責任を負っており、当然ながら両者の意見が異なるケースも想定した制度設計がされています。こうした食い違いが発生する可能性にこそ意味があるとも言えます

今回の否決に問題があるとすれば、ほぼ全会一致での否決となったこととことです。川崎市議会始まって以来であるだけでなく、全国の他の自治体を見ても極めて異例な事態といわざるを得ません。二代表制のもと、市長と議会の意見が異なる場合には、両者が丁寧に議論を重ね、間にある溝を埋める努力を重ねることが重要です。そうした積み重ねがされたならば、仮に否決されたとしても、全会一致での否決ということにはなりません。



市民生活に直接かかわる議案ではなく、緊急性もそれほど高くないものが、議案としての熟度が低いまま議会に提案されたことは、議会運営に改善すべき点を含んでいたと思います。

これから市議会では、新たな総合計画をめぐる議論も佳境に入ります。今回の事態を踏まえ、関係の再構築が求められています。

（事務局）

ありがとうございました。

シリーズ
数値でみる川崎と高津No.2

人口増と高齢化が同時進行

川崎市議会議員

ほりぞえ健けん

政策を決める上で一番重

しかし、本市でも子ども

要な数値は「人口動態」で
す。どの年代層の市民がど
れだけいるのか。そして、
10年後、20年後にどうなる
のかによって、その時々の
税収や、必要な公的サービ
ス量が概ね決まるからで

す。
川崎市では、まだまだ人
口は増え続けています。本
年4月に147万人を超え、
2030年には152万人

の数が増えるこ
とで実現されて
いるのです。
お年寄り
の数は来年から減りはじ
め、現役世代もほぼ横ばい
で推移します。つまり、川
崎市の人口増は、

対応できる社会システムを
構築することであり、その
ためにも現状をきちんと知
ることが大切です。

「高齢社会」というと暗
いイメージで捉えるかもし
れませんが、お年寄りが長
く生きられる社会というこ
とであり、本来は素晴らし
いことだと思います。問題
は、その変化にしっかりと

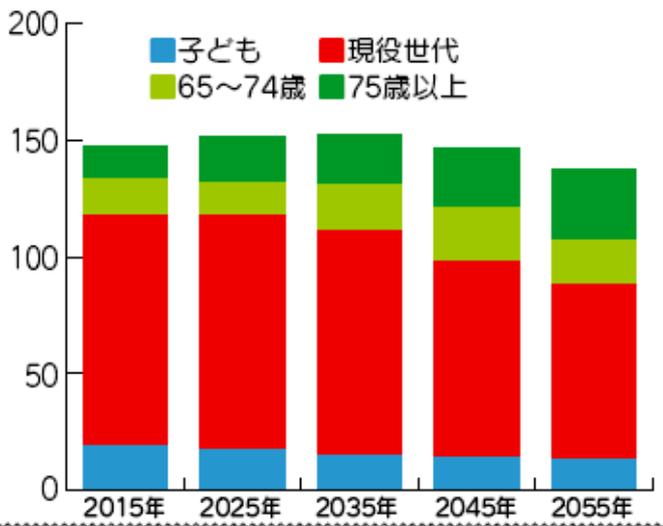


ほりぞえ健けん

1963(昭和38)年、高津区に生ま
れ、高津小学校出身。桐朋中学、
高校を経て東京工業大学を卒
業。52歳。妻と長女の3人家族。

Facebook: horizoeken
<http://www.horizoe.com/>

「川崎市将来人口推計」(2014年8月)



毎週、最新ニュースを駅頭でお配りしています。



月曜日:津田山駅 水曜日:溝口駅南口 金曜日:梶が谷駅 / 午前7時~8時半